

要旨

これまで、人の幸福の要因についての研究では遺伝や収入、職場の環境など様々な観点からアプローチがされてきたが、普段行っている一つ一つの移動に焦点を当てた研究はあまり行われてこなかった。

本研究では、日常的に行っている交通行動が個人の暮らしにおける幸福に影響を及ぼすものと考え、個人の生活に対する主観的な評価である主観的幸福感(Subjective Well-Being)を用いて、移動時に感じる幸福感が生活全体の幸福感到及ぼす影響について検証を行った。また移動の目的や移動手段、移動時の風景等の諸属性が移動時の幸福感到どのように影響するかについて探索的な検証を行い、移動で感じる主観的幸福感到寄与する移動の要素について知見を得ることを目的とした。

仮説を検証するため、大学生を対象に日々行っている移動に関するアンケート調査を行い、移動の目的や手段、同伴者の有無などについて尋ねるとともに、移動時の主観的幸福感到、生活全体の主観的幸福感到を測定した。

調査で得られたデータを整理し、分析を行った結果、移動時の主観的幸福感到が生活全体の幸福感到に統計的に有意な正の影響を及ぼすことが示された。また、移動目的の違いによって生活全体の幸福感到への影響が異なることや、移動時の景色に対する好意が、移動時の幸福感到に寄与する可能性が示唆された。